



平野俊夫 TOSHIO HIRANO

大阪大学大学院生命機能研究科

<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/molonc/www/index.html>

日本免疫学会会長就任にあたって

この度、高津聖志会長の後任として第14代日本免疫学会の会長に就任いたしました(2005年1月1日—2006年9月30日)。大変光栄に思いますと同時に、その責任の重大さを痛感いたし、身の引き締まる思いです。

1971年に免疫化学研究会と免疫生物学研究会が合体して、山村雄一先生を中心に日本免疫学会が創設されました。それから早30有余年、現在、6000名を上回る会員より成る大きな学会に成長いたしました。日本免疫学会の発展のためにこれまでご尽力を賜りました歴代の会長ならびに関係の諸先生方に心より敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

今、日本免疫学会は、第二の創設の時期を迎えている感があります。1971年のそれは、日本における現代免疫学の誕生を目的とした、文字通り免疫学と免疫学会の創設でありました。そして、2005年、多くの先輩の先生方のご努力によりここまで発展してきた日本免疫学会が、さらに合理的に組織された国際的な学会へと脱皮をはかるべく、大きく踏み出そうとしています。2005年は任意団体からNPO法人への新たなスタートの年であるとともに、2010年に日本で開催されることに決まった国際免疫学会に向かって、新たな第一歩を踏み出す年でもあります。また日本免疫学会と理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター(RCAI)共催の第一回国際免疫シンポジウムが今年6月に開催されます。

日本免疫学会の理念は、「免疫学を志す会員を組織的に支え、もって免疫学の発展を促進するとともに、免疫学をより広く世間に広める事」であります。その志は、「免疫学が医学・生物学の発展を牽引し、世界でリーダーシップを発揮できる日本免疫学会になること」であると考えます。この理念と志のもとに、

1) 2010年の国際免疫学会開催に向けて、学会として責任ある体制の確立

2) 国際免疫学会連合(IUIS)はもちろんのこと、

アジア・オセアニア免疫学会連合(FIMSA)とのより密な連携、人的交流

3) スムーズなNPO法人化の立ち上げと免疫学会独自の事務組織の確立

4) 日本はもちろん、世界に向けた日本免疫学会からの発信、

そのための広報活動の国際化

5) 次代の研究者育成をめざした活動

など理事会の皆様、評議員の皆様と共に会員全員で力を合わせ、よりオープンで世界に開かれた日本免疫学会をめざしていくつもりであります。

私の就任に伴い、庶務担当幹事は烏山一教授(東京医科歯科大学)に、会計担当幹事は小安重夫教授(慶應義塾大学)に引き続きお願いいたしました。また学会の運営を円滑にするために、副庶務幹事を設け、中山俊憲教授(千葉大学)に就任をお願いいたしました。さらに、学会の目の前の諸問題や、将来の問題に速やかに対応するために、会長の諮問機関として、学会あり方検討委員会を引き続き設置することとし、菊谷仁教授(大阪大学)に委員長をお願いいたしました。

今後免疫学の発展はもとより、日本免疫学会のさらなる発展のためには若い会員の力なくしては考えられません。若い会員の皆様方の柔軟なアイデアにより、免疫学が飛躍的な展開を遂げることを願うとともに、日本免疫学会の発展をも目指したいと考えています。"会員一人一人の日本免疫学会たる"をめざして、皆様方とともに歩んで行きたいと考えています。つきましては、学会の運営に対して、若い会員の皆様からも遠慮のないご意見と、ご提案をお待ちいたしております。

皆様の研究の益々のご発展をお祈り致しますとともに、免疫学のみならず生命科学にブレークスルーをもたらすような研究成果が日本から出ることを願って、会長就任のご挨拶とさせていただきます。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。